

動物新聞



2021年 日付
2月28日 (日)

動物キャラクター名

馬のウマハナ



◎見出しタイトル

人間だって動物じゃないか

◎動物たちからの訴えで印象に残った内容をまとめてみよう

シロテテナガザルのメリーから東南アジアの仲間たちが、人間が森を破壊しアブラヤシをどんどん植えてオランウータンやゾウが森から追い出されたり、殺されたりしていると聞いた。もっと驚いたのは、森から追い出されているのは私たち動物だけでなく昔からそこに住み生活していた人間たちもいるということだ。「人間も動物だけじゃなく昔からそこに住み生活していたアブラヤシ(パーム油)を使わなかったら、森が再生できるのならいいけど...。いろいろ調べたけど、何に使われているのか分からないくらい使用されている。例えば「植物油脂」については「大豆油」「なたね油」など個別の種類を記載する場合がありますが、食品表示基準第三条において「食用油脂については植物油脂若しくは植物油脂と表示することが出来る」としている。これでは、分からないってこと。

人間さえ良ければいいという考えは間違っている。下の写真は、ケニアで撮影した象の親子。子どもの象は、お母さん象のそばにいて嬉しそうに感じる。動物だって生きてるんだよ。お金ですべてが解決する訳ではないけど、募金をして森を守るって意見には大賛成だ。何もしないより何かした方がいいに決まってる。



◎人間たちはどうしたらいいのだろうか？ 私はどうしたらいいのだろうか？

アブラヤシのプランテーションを止めるのは、どうも難しそうだ。そこに働いている人にも生活がある。ただ一つ言えるのは、これ以上の森の破壊は中止すべきだ。別の内容だったが、テレビで二つのかんじょうについて話をされていた。それは「感情」と「勘定」だ。森を守りたいと言う気持ち「感情」と経済活動で生活を豊かにする「勘定」。さまざまなことでこの二つのかんじょうの関係が大事なんだと思った。

人間の中に、プランテーションで働かされ小学校に行けない子どもがいるという。これは、絶対にいけない。人間は、まず現実を知ることが大事だ。自分が使っているこの紙や鉛筆が何でできているのか。それは、どの国からきているものであるか。もっと、関心を持つよう。

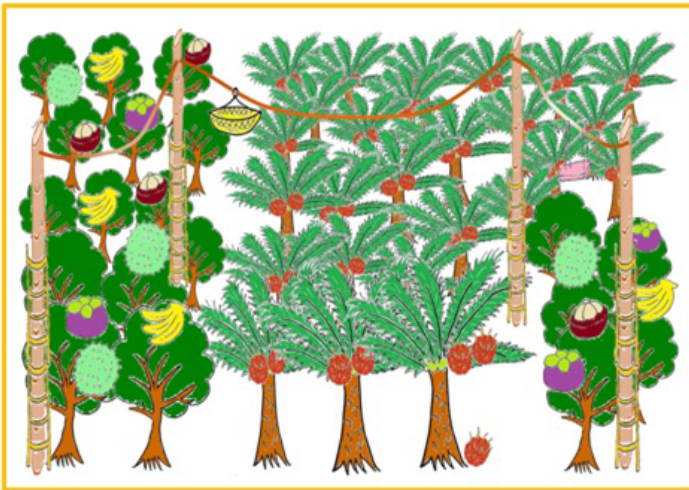
私は、森を破壊されたオランウータンのことを考えた。どうしたらいいだろうと。

私は、アスレチックが大好きだからもしかしたら、ナツメヤシの上にロープを張り巡らせたらいいいのではないか。残っている森に行き来できないかな。高い高い鉄柱を立てたら

アブラヤシ作業の邪魔にならないと思う。調べてみるとすごい発見があった。

この方法は、すでに私が住んでいる日本の多摩動物園と言う所で行われていたのだ。実際にオランウータンが生き生きとロープを伝ったり、アスレチックで遊んでいる。しかも、このロープの通り道にとっても素敵な名前が付いていた。

「スカイ・ウォーク」空中散歩と言えはいいだろうか。人間も捨てたもんじゃない。人間の中にも一生涯懸命に動物のことを考えてくれる人もいてるってことだ。



【図やイラスト・写真なども使って自分だけの動物新聞をつくってみよう】